

グループ名	ユニット名等	科目名	担当教員名	対象学年次	学期
進路選択	2単位 日本語教育能力	日本語教育能力検定試験対策	矢端晴美	1年次	秋

授業のキーワード	基本用語 日本語表記 過去問題
授業の概要・目的 及び修得させる知識・技能	一年に一回行われる、日本語教師の認定試験である、日本語教育能力検定試験の対策講座です。表記や語彙といった日本語そのものの知識だけでなく社会言語学、心理学、異文化対応といった外国語学習に欠かせない知識も学習します。
履修のアドバイス・ 前提科目等	検定試験の合格率は20%弱という難関ですが、「日本語教授法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を受講し、さらにここで基本用語を学習し、過去問題を説くことによって、試験の傾向、対策を把握します。試験への準備は講義だけでは十分ではありません。勉強の方法を学ぶつもりで受講してください。

授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	検定試験概要	検定試験の概要（日時、受験資格、内容、レベル）	第9講	心理学「学ぶということのメカニズム」	心理学と日本語教育、「学習」とは
第2講	文字表記（第1講）	常用漢字、送りがなの付け方、現代仮名遣い	第10講	第2言語習得	母語習得に関する理論、学習者の言語の特徴、母語の影響
第3講	文字表記（第2講）	外来語の表記、ローマ字表記、記号、符号、横書きの書き方	第11講	日本語文法	基本用語解説。過去問題解説
第4講	日本の文字の歴史	漢字に関わる知識（六書、国字、新字体、旧字体）漢字の伝来、万葉仮名、平仮名、カタカナの歴史	第12講	教授法	さまざまな教授法について基本用語解説・過去問題解説
第5講	語彙（第1講）	語彙、語種、語構成について	第13講	音声・聴解	アクセントやイントネーション、調音法の聞き取り等、過去問題解説
第6講	語彙（第2講）	語彙の体系、理解語彙と使用語彙、位相（行きます、行くぞ、行くよ、行くわの使い分けは？）	第14講	異文化理解	母語を外国語として教えるのに一番大切なことは、無意識に使っている母語を客観視することであり、自文化についても同様である。アイデンティティ、自文化中心主義といった用語から解説する。
第7講	社会言語学（第1講）	敬語、方言と共通語	第15講	期末試験	
第8講	社会言語学（第2講）	コミュニケーションとは、言語接触	評価方法		出席10% 小テスト20% レポート20% 試験50%
備考 (関連する資格・試験等)	日本語教育能力検定試験合格を目指し、関連4講座で試験内容の60%をカバーします。残りの40%は紹介する書籍等で自習し準備してください。				
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
新はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識 高見沢孟監修 アスク出版			新はじめての日本語教育 基本用語事典 アスク出版 日本語教育能力傾向徹底分析問題集 アルク 日本語教師のための言語学入門 小泉保著 大修館書店		